IBULIVE いぶりぶ
いぶり+Live
医療法人 社団 いぶり腎泌尿器科クリニック 広報誌 秋号 NO.31 季刊誌
泌尿器科・血液透析

「エピペン」適切使用を説明

学校関係者の研修会で指導

当院の坂東薬局長が講師務める

坪院長がコーディネーター役

食物アレルギー疾患の応急処置で使われる医薬品「エピペン」の研修会（伊達市教育委員会主催）が7月23日、伊達市役所会議室で開かれました。研修会には市内小中学校から校長や教頭、養護教諭などの学校関係者およそ40人が受講し、正しい使用法などを熱心に学びました。研修会の模様は同月25日付けの室蘭民報朝刊で報道されました。

研修では当クリニックの院長で、胆振西部医師会の坪俊輔会長がコーディネーター役を、同じく当院の坂東昌志薬局長が講師を務めて、近年増加傾向にある食物アレルギーへの対処法など、熱心な説明を行いました。

エピペンはアドレナリンの自己注射薬で、食物アレルギーによるショック症状が出た場合、応急処置として大腿部外側に打つ医薬品です。給食を原因に児童、生徒がアナフィラキシーを発症し、死亡する事例も国内であるため、市教委が受講を呼び掛け、適切な使用法や対応を学ぶために今回の研修会開催になりました。

研修会の様子（室蘭民報提供写真）

坂東薬局長は食物アレルギーの症状と、原因となる食べ物、アナフィラキシーによる危険な体のサインなどを詳しく紹介し、エピペンの実際の使い方などを分かりやすく説明、指導しました。

受講者は実際に学校現場で発症した場合を想定しながら針、薬液を含まない練習用トレーナーを使って繰り返し体験、真剣な表情で坂東薬局長の指導を受けていました。

「アナフィラキシーの徴候や症状を感じた時はちゅうちょなく打つ」「子どもが嫌がっても打つ」など迷いのない、強い判断が大切であることを強調しアドバイスしていました。

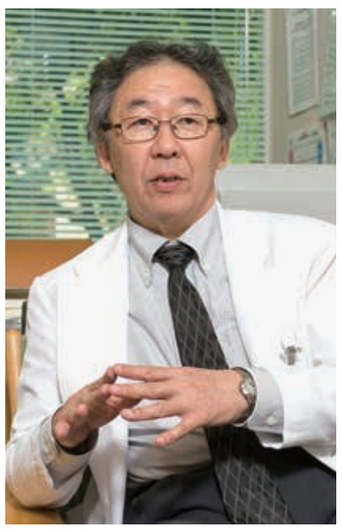
当クリニックは地域医療を担う中核医療機関として、このような研修や催しには積極的に協力、専門スタッフの派遣を行います。また、自ら地域の医療や保健衛生活動に役立つ発信を行っていきたいと考えております。皆様のご理解とご協力も併せてお願い申し上げます。

坪院長の健康講座

前立腺癌について

＝前編＝

院長 坪 俊輔



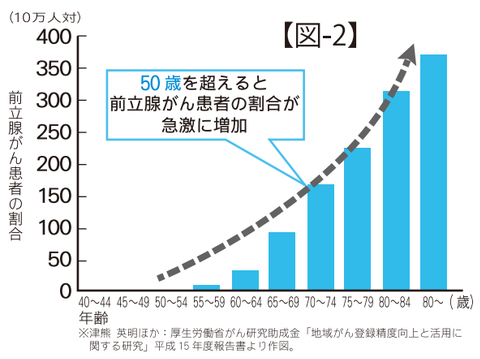
今回は男性の泌尿器科癌で最も多くみられる「前立腺癌」について総論的にお話しします。図―1に示すように、前立腺は膀胱の下方で尿道を取り巻くように位置する通常クルミ大の、男性にだけある臓器です。精液の一部となる前立腺液を分泌して精子を保護するとともに、排尿の調節にも関与しています。日本での前立腺癌の発病率は人口10万人当たり40人強、男性癌を部位別に見ると、胃癌・大腸癌・肺癌に次いで第4位で、数年後には肺癌に次いで第2位になると予測されています。前立腺癌は日本に比べ欧米での発病率が高く、発病のリスクとして人種的な要因が考えられています。

一方、米国に移住した日本人は日本で暮らす日本人より前立腺癌の発病率が明らかに高いことから、なんらかの環境因子が発病のリスクとして関わっていると推測されていますが、いまだ特定には至っていないようです。加齢は明らかなリスク因子です。図―2に示すように本邦でも50歳を過ぎると急激に発病率が上昇します。もう一つのリスク因子として遺伝的要因があると考えられています。明らかな遺伝形式はわかっていないようですが、近親者での前立腺癌患者数が多いほど、またその発病がより若年であるほど高いリスク因子となっているようです。

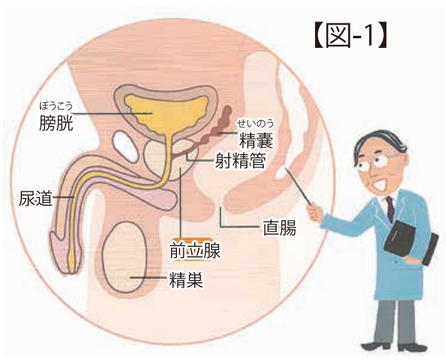
なお前立腺癌にはラテント癌（潜伏癌）といって、例えば他の病気で亡くなったあとの解剖で偶然わかる、一生臨床的には問題にならなかった癌が、50歳以上の日本人には25％前後みられるようです。このラテント癌の頻度は臨床癌ほどには人種間での差はないとのことです。前立腺癌の症状については、早期の場合特徴的なものはありません。通常の排尿障害で受診された中高年の男性で約5％に前立腺癌が見つかったとの報告があります。

なお進行した前立腺癌では血尿や強い排尿障害、転移した時には骨の痛み・リンパ浮腫などがみられます。前立腺の腫瘍マーカー（PSA：前立腺特異抗原）・直腸診・レントゲン検査などで前立腺癌を疑ったならば、短期入院のうえで組織検査を行い、確定診断を得ます。（通常は腰椎麻酔下で肛門からエコーを入れて前立腺に当て、針を刺して組織を採取する「経直腸的エコーガイド下針生検」が一般的かと思われます。）

前立腺癌の治療法については次号の後編でお話する予定です。＝以上＝



※津熊 英明ほか：厚生労働省がん研究助成金「地域がん登録精度向上と活用に関する研究」平成15年度報告書より作図。



インフルエンザ予防接種のご案内

日頃より当クリニックをご利用いただき、ありがとうございます。
インフルエンザシーズンに向け、11月4日(火)よりインフルエンザ予防接種を行いますので、ご希望の患者様は窓口までお申し付けください。

《予約を随時受け付けております》

接種期間 平成26年11月4日▶12月26日

料金

一般の方 《1回》2,580円

※ワクチンがなくなり次第、終了とさせて頂きます。
●次回受診日にあわせて接種することをお勧めいたします。

○伊達市・壮瞥町・洞爺湖町・豊浦町にお住まいで予防接種を受ける日までに65歳以上になる方。上記4市町にお住まいの60歳～64歳の方で心臓病、腎臓病、呼吸器の機能に自己の日常生活が極度に制限される程度の障がいを有する方。 ▶ 《1回》1,100円

○同4市町にお住いの65歳以上で生活保護世帯の方と世帯全員が市民税非課税の方〈各市町発行の生活保護受給者証、非課税証明書（手数料が必要です）を当日ご持参ください〉 ▶ 無料

●当院の予防接種対象患者様は15歳以上の成人の方のみとなります。
●ご不明な点などございましたら、職員までお問い合わせください。

■発行：いぶりぶ発行委員会 伊達市梅本町2番地15いぶり腎泌尿器科クリニック内 TEL0142-21-1400 FAX0142-21-1401
■発行/平成26年10月10日■4月・7月・10月・1月の年4回発行 ※本誌掲載の写真、記事の無断転用は固くお断り致します。 ●発行責任者：横井 浩

新人さん紹介

まずは資格取得！

事務部医事課 横山 舞さん

今年9月に仲間入りしたばかりの横山さん。「覚えることがいっぱいあって大変です」と率直な感想も、「まずは医療事務の資格取得を」と頑張っている。伊達生まれの伊達育ち、札幌の短大へ進学した以外はほぼ伊達で暮らしている。趣味は音楽鑑賞で、短大時代に友人に誘われ"はまって"しまったKポップを聞くのが至福の時間らしい。5人グループの「シャイニー」の大ファンだ。高校でバドミントン、中学ではソフトボール部に所属したスポーツウーマンでもある。「自分で判断できるように早くなりたい」と来春の資格試験に臨む。

頑張ります

透析看護助手 菊地紗也佳さん

札幌でのOL生活を経て、今年8月から看護助手として働くようになった菊地さん。幼い頃から「和」への憧れのような関心があり、高校時代は迷わず茶道部へ入部した。ゆったりとした時間感覚が「たまらない」らしい。反面幼少時は「外で走り回るのが大好きだった」といいながら「運動は苦手」という"不思議ちゃん"だ。祖母が看護師であった関係で、高校時代は看護師への憧れもあったという。人と接するのが好きで「患者様との触れ合いは楽しい」と話し、「早く職場の役に立てるよう一人前になりたい」と動き回っている。

「看護管理Ⅱ」研修会に参加して

透析看護師長 辻 和子

この度8月20・21日に管理者研修に参加しました。組織の目標達成のために私達の役割は存在します。目標管理について、人材育成についていかに「人材」を「人財」に変えるか、スタッフが自主的に充実した仕事生活を送れるか、その支援とアドバイスは重要であり私の役目であると感じました。

管理者の役割は、患者様及びスタッフの安全を第一に考え、スタッフのモチベーションを支えるなどの支援を行い、スタッフを褒め・叱り・気持ちを聞き、各個人の目標が達成できるよう導く事だと考えています。その目標は透析室の看護の質の向上、看護部の目標、そしてクリニックの理念に繋がっています。

透析室は、看護師のみならず臨床工学技士、看護補助者もチームの一員として働いています。職種の違いはありますが、スタッフ間の連携を大切にし、今後5年先、10年先「いぶ腎」の透析室で働いて良かったと思ってもらえる環境作りをして行きたいと感じました。

今回貴重な研修に参加させていただき、ありがとうございました。

外来看護主任 高橋 亜由子

現在、外来は師長が不在であるため、主任として自分が管理を任されています。管理とは何か、自分はどうしたいのか、すべきなのか全く自信のないまま試行錯誤してきました。そんな状態の自分にとって今回の研修は、頭の中でふんわりしていたことが、今、自分がやるべきことはこれだ!!と明らかにできるものになりました。

今回の研修テーマの一つに、「目標管理」がありました。外来は、4年前からその時の師長が目標シートというものを使用し看護師・看護助手が部署目標から自分が頑張りたい目標を上げ、それに関連した個人目標を立案、具体的な行動計画を立てています。しかし、この目標を日々意識して仕事をしているスタッフは多くないように思います。そこを、私は管理者としての課題として取り組んでいきたいと考えました。目標を評価するために年度初め・中間・年度末と面談する機会を設けています。そこで、もっと具体的な目標や計画を立てられたらと思っています。何のために働いているのか、モチベーションの保持が難しいとき、簡単なことであろうと、「まずこれだけ頑張ろう」と思えるものがあれば、またそれが達成できたら、頑張った自分を評価することができ、次に繋がるのではないかと思います。その繰り返しができるよう、支援していくことが、私のやるべきことの一つ目になりました。

もう一つ、研修テーマに「人的資源管理」がありました。経済学などが入ってきて理解するのは難しいテーマでした。その中で、人材確保・離職防止の取り組みもありました。ある病院は、有給休暇もとれない、残業も多い、しかしその病院には海外研修があったり、休職後の復帰プログラムがあったりと、その病院で働くメリットがあります。その魅力が自分の部署にもあったらと考えました。外来は小さい子供さんを持つスタッフが多いです。急に子供が体調を崩したりして、スタッフが休むことはよくあることです。そのために、人手を増やすことはできません。休んだ者がいても、お互い様と思ってくれる同僚がいる職場。お陰様で私が頑張らなくても、今の外来スタッフは、そういう人たちばかりで助かっています。職場の人間関係が良好というのも、大きな魅力の一つだと思います。私のやるべきことの二つ目は、その環境の維持です。

2日間の休みをもらって研修に参加した割に、「大した学びでもないんじゃない?」と思われるかも知れませんが、今後に活かせるよう頑張らせてもらいますので、外来スタッフのみなさん、患者様、今後ともよろしくお願いいたします。

「管理職育成研修」の開催

今年7月から来年1月まで継続して実施

さらなるクオリティを追究し、組織活性化を目指します！

当クリニックでは、医業経営を取り巻く環境変化に的確に対応し、地域医療を担う機関としての期待に応えるために「管理職育成研修」を今年7月から来年1月までの7カ月間、毎月7回の研修を実施しています。

研修は「株式会社ムトウ・コンサルティング事業部」の齋藤暁（さいとう・あきら）氏を講師に、管理職員15人が毎回参加して実施しています。個人における価値観の多様化もあり、医業経営を取り巻く環境も時代と共に変化することにより、意識のズレなど憂慮すべき事例もあり得ます。

そういった時代背景の中、当院がより発展していくために各部署のリーダーが組織共通の目的に向かい、けん引する強い指導力が求められます。研修ではワークショップや思考を整理する技法（フレームワーク）を実践、活用しながらリーダーに求められる能力・知識・役割について理解を深めこれまでの認識や理解などを見つめなおし、さらに成長することを目的としています。

誤報 column コラム 待合室 No.31

○…日本新聞協会発表のデータから、2012年からの1年間で78万部強もの部数減が見て取れる。当然1部当たりの読者は複数人になるので、その数字は大変な値となり、同等の人口を有する都市は道内では札幌市しかない。いかに深刻な状況であるかが伺われる。

○…減少は経済にも大きく影響する。製紙業界では需要の減少から減産の流れになる。嘘か本当かは定かではないが、製紙工場を主要産業とする道内のある都市では「工場撤退」の噂まで流れる始末。だが、「本当かも」と思えるほど、事態は深刻な状況といえる。

○…こんな中、我が国を代表する大新聞が「誤報」による謝罪を記事撤回という形で行った。社長も引責辞任する見込みという。誤報と呼ぶには余りに作為的な報道姿勢が読者を失墜させ、部数減少にも拍車がかかるだろう。真実を伝えるのが「報道」であったはず、その代表格「新聞」がこの在り様だ。

○…部数減はネットの影響が大きいといわれるが、果たしてそうなのだろうか?行政の記者発表に頼り、記者クラブ中心に取材が行われる結果、偏った報道内容に終始する紙面は行政の広報と化し、読者ニーズを捉えていない。これが最大の原因ではないか…。要は面白くないのだ!紙面が。

○…行政にコントロールされた報道は「東日本大震災」で混乱した。それは主要な情報源であった官庁自体が混乱し、機能しなかったからと見る。その混乱を読者は見逃さなかった。3・11が新聞部数減少に拍車をかけるターニングポイントになったようだ。ネットや消費増税の影響ではない。

○…減少の流れを止めるには自信回復しかない。社会の公器としての誇りを、振り返る余裕が欲しい。前出の誤報問題について突っ込んだ報道がなされていないのは何故か?この問題に真摯に立ち向かうことが、メディアの自信回復につながるはずなのだが…。そういった空気がまるでない。同業の傷には触れないということか。

○…求められるのは、メディア全体の自浄作用だ。誤報の原因を追究し、報道の在り方を見直すことが自信回復につながる。自らの間違いを正せなくて社会の公器といえるだろうか。方法は簡単なことだ、読者の方向に目を据え、小さな声に耳を傾ければ真実が見えてくる。誤報問題は当事者一社だけの問題ではない。

悩みは万病の元
その悩みひとまず
弁護士へ
無料法律相談
※秘密厳守

当院の顧問弁護士が、悩みの相談に応じます。
悩みを引きずらず、思い切って相談してみましょう！
借金・債務整理 相続・遺言 交通事故 離婚問題 etc.
担当弁護士 上田 勝啓（札幌弁護士会所属）
■相談無料■
●ご希望の方はお気軽に当院の横井事務長までご一報ください。
0142-21-1400(代)